

令和6年、元日の能登半島地震からもうすぐ1年が経とうとしている。9月には豪雨災害、11月には最大震度5弱の地震が起き、繰り返す災害と被災地は闘ってきた。描いた通りに進まない復旧に、心が折れそうになり、先への不安を抱えながら住民たちはそれぞれの歩みを始めている。

被災地の中には、枯れ草が生い茂り、海風や山の木々の間を通り抜ける風の音しか聞こえなくなった集落がある。12月に入って、ようやく断水が解消したエリアもある。同じ日本列島の中で、これほどまで長い時間、最低限の日常生活すら送れない環境があるということを、想像できるだろうか。

12月8日には、石川県で初雪が観測された。

*

*

*

2024年12月11日(水)

輪島・和太鼓 虎之介(輪島市中心部)

橋爪朱宗代表のご案内で、豪雨災害の被害を受けた太鼓を調査しに行く。この日の輪島は気温が6℃で、冷たい雨が降り続いていた。

同団体の事務局長であり指導部である、二木尚之さんのご自宅兼会社には、以前より、輪島・和太鼓 虎之介所有の2台の平太鼓が保管されていた。内装店を営まれている二木さんのご自宅は、地震と水害の二重被災となった。家の中に水が流れ込んでから10分ほどで、水位が2メートル近くまであがってきたという。二木さんは、足元ぐらいまでの高さの水害を、幼少期にこの土地で経験されており、今回もそんなものだろうと思っていたら、物を動かす余裕もなく、飼い猫を頭に乘せて避難するので精一杯だったと話される。

部屋のあちこちに泥がこびりつき、壁にはくっきりと水の跡が残り、水害特有の匂いが充満している。太鼓は、左下写真のグレーの戸棚の中に保管されていた。



被害のあった2台の太鼓をブルーシートの上に並べてもらう。平太鼓①は胴に泥がこびりつき、片面が破れ、両面ともにカビが広がっていた。水害から3日後に救出された、平太鼓②は、胴割れとともに革が完全に腐食し、鉾の錆が進行していた。

平太鼓①を革面修理とし、平太鼓②は新調対象とした。



平太鼓①



平太鼓①



平太鼓①



平太鼓②



平太鼓②

次に、輪島・和太鼓 虎之介のOBである今井昴さんに貸し出していた、同団体所有の太鼓の調査に向かう。

今井さんは、輪島のスタジオ「ゴッチャ！ウェルネス輪島」で、毎週月曜日に地域住民に太鼓教室を開いていた。スタジオは社会福祉法人・佛子園が運営する「輪島カブーレ」内の施設で、貸し出し中の太鼓はそこに保管されており、水害被害を受けた。

スタジオのスタッフの方に当時の写真を提供していただいた。床上浸水になった室内と、窓の向こうでは、水がどんとどんと道に流れ込んできているのが見える。



写真提供：輪島カブーレ

太鼓(締太鼓1台・長胴太鼓1台)は救出後に水で洗浄して下さっていたが、締太鼓、長胴太鼓ともに革の張替えが必要な状態になっていた。また、締太鼓のハードケースは、泥が中まで入り込み、パーツは錆による劣化が始まっていた。長胴太鼓のケースは洗浄しても泥が取り切れず、内側が傷んでいた。太鼓は全て両面張替えとなり、ケースは新調対象となった。





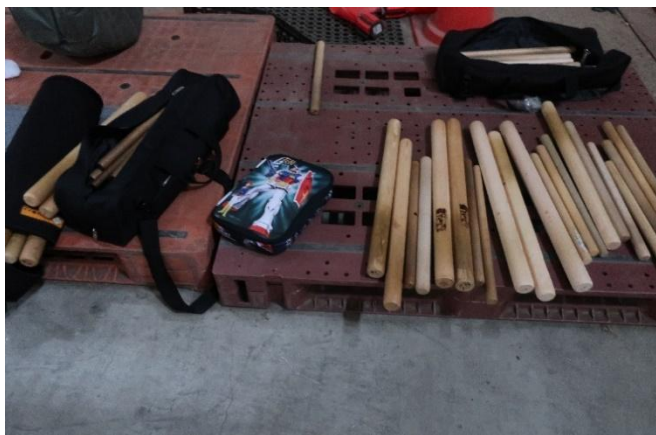
太鼓調査が終わり、橋爪代表と仮の練習場となっている場所へと向かう。震災前に使用して場所は、支援報告書11にも記載したが、練習場である体育館は床や壁が歪み、裏手は土砂崩れのままとなっている。また、支援物資の置き場にもなっており、今後も利用することは不可能だと思われる。

現在は、メンバーの保護者の紹介で、震災前に閉鎖された JA のライスセンターを練習場にお借りしていると伺う。輪島市中心部から車で20分ほどの場所である。曲がり道の多い道路で、山奥へと進む。雪が降れば、この道は、練習に通える道路なのだろうかと不安になる。途中に広がる田んぼの畦道には、未だに泥が積もり、水路は詰まったままである。土嚢袋は土砂に埋もれて、その機能を失っている。



現地に到着すると、今にも倒れそうな木が目に飛び込む。中は薄暗く、寒い。ここは、電気も水も電波も通っていない。輪島和太鼓 虎之介は、18時～20時、週に数回、この場所で練習している。充電式の投光器を使い、トイレも使えないので、練習は2時間が限度である。小さな石油ストーブが一台置かれていたが、屋根と壁の間に隙間があるので、とてつもなく寒い。

11月に開催された日本太鼓ジュニアコンクール石川県大会まで、週3回、この場所で練習していたと伺う。子どもたちは、このような環境の中で太鼓の練習をしており、今も続けている。



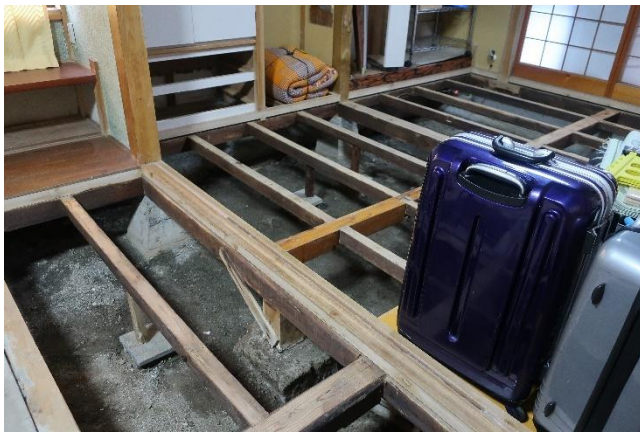
輪島祭り太鼓(輪島市中心部)

輪島祭り太鼓の代表者である大江正明さんよりご連絡をいただき、輪島市中心部へと戻る。地震により自宅は被災し住める状態ではないため、お子さんのいる七尾市に避難されている。震災後は、そこから通いながら、自宅の荷物の片付けを行っていた。そこへ9月の豪雨が襲い、被害は更に進んだ。自宅の2階に保管してあった太鼓の救出は遅れ、発見した時には落下物の衝撃なのか、革が破れ、水に濡れた跡が残っていたそうである。

ご自宅に伺うと、1階の壁に床上浸水の跡が残り、部屋の床板がはがされていた。太鼓が保管されていた2階へと上がる。途中の壁は、配管が剥き出しになっており、どこからか水漏れしているのだと話された。

同団体は、キリコ祭りである輪島大祭の保存と継承育成のために設立された。震災前は、輪島市文化会館において19名ほどのメンバーで毎週金曜日、18時から21時半まで練習していた。しかし、この場所は支援物資置き場や自衛隊の活動拠点となり、現在は建物の安全上の理由もあり、使用することが出来なくなった。10月に入り、ようやく別の場所を借りることができ、輪島市産業交流館で、数人のメンバーのみで練習している。それまでは、復興イベントなどに呼ばれた際、その当日に手打ちで練習を行うことしかできなかったと伺う。

締太鼓1台の状態を確認し、革面修理の対象とする。



2階 太鼓保管場所



輪島中心部の様子

朝市通り付近は公費解体が進み、広がった更地に電柱だけが、静かに立っている。一本違う道に入ると、倒壊した家屋がそのままになっている。



能登半島の大動脈である国道249号線の全線の通行が、一年をかけてようやく確保される。この道が繋がれば、被災地の方々だけではなく、外からの往来もしやすくなる。これをきっかけに、柔軟なボランティアの受け入れ体制に繋がっていくことを望む。

帰り道、その一部分(名舟町から曾々木方面)を車で走る。土砂崩れにより崩壊し、埋もれてしまった道路の修復は難しく、その下に新しい道路が作られている。



本来の道路は、上にあるガードレールの位置

御陣乗太鼓のいる名舟町には、まだ水害の爪跡が多く残っている。



*

*

*

2024年12月14日(土)

町野祭り太鼓・子ども伝承クラブ・馬縹キリコ太鼓保存会(輪島市町野町)

町野祭り太鼓の柳田尚利代表から写真が送られてきた。支援報告書14に掲載した輪島市町野町にある「もとやスーパー」で、14日、上記3団体が太鼓演奏を行い、地域住民らを魅了した。寄付金支援事業で復活した太鼓は子どもたちの練習に使われ、地元の祭りの音を守り抜いていく。練習風景や演奏の写真を沢山いただいたのでご紹介したい。





*

*

*

2024年12月15日(日)

なにわ太鼓祭り(日本太鼓財団大阪府支部)令和6年寄付金支援事業

当財団の令和6年能登半島地震寄付金支援事業の一つとして、寄付金の一部を7月中旬に石川県支部にお渡しし、被災地の太鼓団体の演奏活動を支援するために当該資金が充当されている。支援報告書14にチラシをご紹介したが、これまで4件のイベントが県外で開催された。今回初めて、当財団大阪府支部が主催となった、寄付金支援事業のイベントを視察した。

野外会場となる大阪城音楽堂で、午前中は日本太鼓ジュニアコンクール大阪府予選会が執り行われ、午後から(13時30分～19時)、「なにわ太鼓祭り」が開催された。

なにわ太鼓祭りは、今回初めて企画されたもので、大阪の冬の風物詩となるべく、大阪府支部所属太鼓団体 OB である尾崎真義氏をはじめ、支部の若手メンバーが中心となり、計画された。そして、藤慶哉支部長、南河真依事務局長、また、石川県の被災地団体と絆の深い大阪府支部の太鼓団体などの協力の下、当財団の寄付金支援事業を活用し、被災地団体 輪島・和太鼓 虎之介を招聘した。



藤支部長の開会宣言では、能登半島地震だけではなく、2018年に起きた大阪府北部地震、阪神淡路大震災などにも触れ、災害の辛さや助け合い、寄付金支援事業について話された。イベントには11団体が出演した。そのトップバッターを飾った大阪府支部所属の「和太鼓 DO-DA×DAN★GAN」は、東日本大震災の際も被災地に向け、現在も年に4回の復興支援ライブを自主開催する団体である。震災前より、輪島・和太鼓 虎之介とも交流があった。メンバーの竹林亜季子さんが、曲始めや曲間に、被災地の方々の言葉や現状を伝えるだけではなく、被災地を忘れないで欲しい、復興までの道のりは長いものであるというメッセージを、丁寧に話されていた。演奏曲の中には、輪島・和太鼓 虎之介 OB のメンバーが作曲したものも含まれていた。



和太鼓 DO-DA×DAN★GAN



輪島・和太鼓虎之介は 2 番目に出演し、OB・OG を合わせた9人編成で演奏を披露した。その力強い演奏と、色々な想いを背負いながらも、心の底から楽しそうに太鼓を打つ姿に、観客から大きな拍手が湧き起こった。石川県民である現地職員としては、その姿にいつも勇気をもらう。能登のリズムが、元気に響きわたる音を聴くと嬉しくて仕方がない。そして、メンバーの方々は、観客や太鼓仲間からパワーをもらい、能登に持ち帰ってくれるだろう。

また、輪島・和太鼓 虎之介は、本イベントの開催前に、同団体の太鼓運搬用トラックの故障が見つかり(現在廃車)、演奏用の太鼓が運べず、浅野太鼓楽器店より太鼓のレンタル、運搬を行った。そのため、石川県支部で預かっている寄付金支援事業から、宿泊費・交通費に加え、太鼓レンタル、運搬費を充当することになった。



演奏終了後、輪島・和太鼓 虎之介のメンバーは、会場内入り口付近に設置された能登復興支援物産展や義援金 BOX のブースに立ち、大阪府支部の団体と一緒に、来場者に声をかけていた。



この後も、大阪府支部所属団体、そしてゲスト団体の熱演が続き、夜6時を過ぎても客足が絶えなかった。今回のイベントは、チケット販売数500枚以上とスタッフ、付添い、出演者などの観覧を含めると、1000人ほどの来場者数であったと報告を受けている。会場である大阪城公園内はインバウンドの影響による訪日客が非常に多く、太鼓の音に誘われ、チケットの価格が1000円ということもあり、客席には海外のお客様も見かけた。

会場は最後まで盛り上がりを見せ、フィナーレは大阪府支部合同チーム「鼓動初め太鼓団(たたきぞめたいこだん)」100名余りによる合同曲「晴晴」の演奏で締めくくられた。途中、藤支部長が閉会宣言とともに演奏の指揮を執り、壇上ぎりぎりまで歩み寄り、出口に向かうお客様一人一人に最後まで大きく手を振る姿が印象的であった。また、送り太鼓も打ち鳴らされ、演者も観客も一体となって終演を迎えた。今後も、地元に着する太鼓祭りになると感じた。



12月の野外地場とだけあって、寒さはそれなりにあった。しかし、会場内に温かい飲食を提供するキッチンカーや会場周辺、徒歩2分圏内にスターバックスやパン屋、コンビニエンスストアがあり、環境としては問題なかった。何よりも、活気ある大阪府支部の方々の熱意と、太鼓で語り合い、太鼓で繋がる真っ直ぐな気持ちが、寒空を吹き飛ばしてくれた。

今回の視察では、石川県支部に預けられた寄付金がどのように活用されているのか、実際に見ることができた。この派遣支援事業は、演奏活動を後押しするだけではなく、県外の方々が、被災地の声に直接耳を傾ける機会となり、被災地が取り残されない、忘れ去られないためにも必要なものだとして強く感じる。また、被災地団体にとっても、正常に動く町並みを見ることは、気分転換になるだけではなく、復興への姿を描く原動力になるはずだ。そして、人の温もりを感じることも、被災地にとって何よりも大事だ。

イベント開催までの準備期間は本当に短かったが、南河事務局長と、被災地の方々の気持ち、被災状況などに関して密に連絡を取り合い、支部の会議の中でも共有していただいた。開催地側と被災地側の両方が負担にならない運営方法のアイデアを出していただき、双方の想いを汲み取ったものであった。

支援とは、正しい情報と状況把握、そして現地とよく話し合うことが大前提である。更に、これまで太鼓団体同士で培ってきた絆を活用しながら、その人にしか出来ない役割分担がある。この寄付金の申請は、年度末(2025年3月31日まで)まで受付けており、2025年度内に実施されるイベントが対象である。是非、活用していただきたい。

*

*

*

2024年12月に私は現地職員としての区切りを迎える。被災地で見た景色、聞いた声、感じたこと、様々な感情は、忘れることはないだろう。復興までは遠い道のりである。生きていてくれた被災地の仲間たちと、今よりも少しだけ前へ、そんな気持ちでこれからも支援に携わっていききたい。そして、この支援で出会えた全ての方々に感謝したい。

尚、今回は太鼓の納品や練習場交通費支援はなく、支出は0円となる。来年、納品した際に報告する。

浅野紘佳

(2024年12月27日)

*

*

*

ご寄付をありがとうございます。

収入、支出とも前回から動きはないため、収支計算書は変わりありません。

寄付金の累計額は12月4日現在で、13,960,006円となりました。

お預かりした寄付金は引き続き大切に使ってまいります。

収支計算書(12/6 現在)

(単位:円)

収入		金額	備考
1/5	全九州太鼓連合	1,000,000	
1/6	関八州太鼓連合	100,000	
1/9	東北太鼓連合	300,000	
1/18	浅野太鼓楽器店	1,000,000	
1/27	河合 光夫	10,000	シニアコンクール出場者
1/29	福井県太鼓連盟	30,000	
1/29	松本 弘昭	35,000	シニアコンクール出場者
2/1	東京都支部	100,000	
2/2	櫛引 秀明	50,000	シニアコンクール出場者
2/2	浅野 義幸	100,000	浅野太鼓楽器店 17 代当主
2/6	岡山県支部	110,000	
2/7	宮城県太鼓連絡協議会	150,000	
2/8	北海道道東支部	30,000	
2/9	茨城県支部	95,000	
2/13	千葉県支部	100,000	
2/13	岐阜県太鼓連盟	100,000	
2/13	岐阜県太鼓連盟獅子の会	50,000	国文祭ゲスト団体
2/13	全九州太鼓連合	2,805,701	

2/14	神奈川県支部	50,000	
2/16	佐々城 清	1,000,000	常務理事
2/16	高野 右吉	10,000	評議員、前副会長
2/16	宮城県太鼓連絡協議会	20,000	
2/16	滋賀県支部	50,000	
2/18	兵庫県支部	200,000	
2/26	日本太鼓財団事務局	143,000	
2/29	静岡県支部	100,000	
3/1	奈良県支部	162,000	
3/4	台湾太鼓協会	500,000	
3/7	北海道道北支部	132,628	
3/11	宮本卯之助商店	1,000,000	
3/14	栃木県支部	106,984	
3/15	群馬県支部	98,000	
3/18	和歌山県支部	130,000	
3/18	北海道道央支部	25,000	
3/19	長野県支部	540,537	
3/21	西岡 知則	30,000	シニアコンクール出場者
3/21	愛知県支部	257,632	
3/26	NPO 法人てほへ	150,000	志多らグループ会社
3/27	(有)志多ら	350,000	
3/27	ブラジル太鼓協会	440,000	
3/28	西川恵美子	50,000	評議員
3/28	北海道道南支部	150,000	
3/29	NPO 東京都太鼓連合	100,000	
3/29	日本太鼓財団東京都支部	500,000	
3/29	日本太鼓財団三重県支部	10,000	
3/29	日本太鼓財団島根県支部	100,000	
4/19	鶴岡太鼓フェスティバル	50,000	
4/25	岐阜県太鼓連盟	28,000	
4/30	逢鷲太鼓連 久野壯	50,000	
4/30	逢鷲太鼓連	92,000	
5/13	広尾陣屋太鼓保存会	10,000	
6/27	西岡 知則	30,000	シニアコンクール出場者
7/16	日比谷音楽祭	609,000	
9/27	西岡 知則	30,000	
10/1	日本太鼓財団兵庫県支部	200,000	
10/4	岩手県太鼓連盟	100,000	
10/4	岩手県立大船渡東高校太鼓部	14,775	
10/15	障害者大会来場者募金	18,088	10/6 障害者大会

10/23	国文祭来場者募金	45,661	10/20 国文祭
10/25	日本太鼓財団香川県支部	100,000	
11/8	浅草太鼓祭来場者募金	11,000	11/3 浅草太鼓祭

計 13,960,006

支出		金額	備考欄
1/11	輪島支援物資	121,741	
1/19	穴水/能登町/志賀町	130,080	
1/27	志賀町/輪島	18,415	
2/8	名舟町	54,780	
2/11	輪島	28,534	
1-2月	各チーム交通費	67,714	
4/1	バチ	20,185	
4/3	横断幕	38,500	
3月	各チーム交通費	105,152	
4月	各チーム交通費	14,973	
5月	各チーム交通費	4,637	
6/28	太鼓修繕	344,000	須須守護神太鼓保存会
7/11	太鼓支援活動の助成金	3,800,000	日本太鼓財団石川県支部
8/1	太鼓修繕/新調	2,588,000	山王太鼓、弁天夢太鼓、珠洲八幡太鼓
9/12	太鼓修繕/新調	1,465,200	龍神太鼓保存会
7月	各チーム交通費	4,637	
10/31	太鼓新調	895,600	馬縹キリコ太鼓保存会
11/21	太鼓修繕/新調	866,000	町野祭り太鼓、御陣乗太鼓保存会
11月	各チーム交通費	73,314	

計 10,641,462

収支差額		3,318,544
------	--	-----------